

第33回 小学館 大賞 ノンフィクション大賞

最終候補作発表！

さる8月末日に募集を締め切りました本賞には、120作品を超えるご応募をいただきました。その中から下記の5作を、最終候補作品として選出しました。この5作品を選考委員会（酒井順子、森健、河合香織の各委員）に諮り、12月中旬までに大賞が選出される予定です。新しいノンフィクションの才能にどうぞご期待ください。なお、大賞受賞作は公式ホームページ、および26年12月～27年1月ごろ発売予定の「週刊ポスト」「女性セブン」誌上で発表します。お問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。

最終候補作品（タイトル五十音順）

『心の「生」をみつめて』

泉優紀子 いずみ・ゆきこ（会社員、33歳）

『Z世代、スマホ無しでアフリカ旅してみたら』

鎌倉 創 かまくら・そう（映像業界のフリーランススタッフ、23歳）

『敵兵を抱く 一戦後八〇年 B29探検と米兵救出劇の解体』

高橋大輔 たかはし・だいすけ（探検家、59歳）

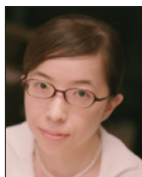
『「桃源洞」のデイヴィッド 一ボウイと京都を結んだキッドを追って』

樺山 聡 かばやま・さとる（京都新聞記者、51歳）

『なぜ妻は殺されたのか 一名古屋主婦殺害事件の9800日』

土屋 健 つちや・けん（中京テレビ社員、51歳）

選考委員



さか い じゅん こ
酒井順子

エッセイスト。1966年生まれ。大学卒業後、広告会社勤務を経て執筆業に専念。2003年に発表した『負け犬の遠吠え』はベストセラーとなり、講談社エッセイ賞と婦人公論文藝賞をダブル受賞。女性の生き方、古典、旅、文学など幅広く執筆。『ユーミンの罪』『家族終了』『女人京都』『老いを読む 老いを書く』『松本清張の女たち』など著書多数。



もり けん
森 健

ジャーナリスト。1968年生まれ。2012年、『「つなみ」の子どもたち』で第43回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。2015年、『小倉昌男 祈りと経営』で第22回小学館ノンフィクション大賞、第48回大宅壮一ノンフィクション賞（2017年）を受賞。2023年、『安倍元首相暗殺と統一教会』で第84回文藝春秋読者賞受賞。



かわ い か おり
河合香織

ノンフィクション作家。1974年生まれ。神戸市外国語大学卒。2009年『ウスケボーイズ 日本ワインの革命児たち』で小学館ノンフィクション大賞を、2019年『選べなかった命 出生前診断の誤診で生まれた子』で大宅壮一ノンフィクション賞と新潮ドキュメント賞を受賞。『母は死ねない』『老化は治療できるか』など著書多数。